

厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)  
(分担)研究報告書

熊本地震と中越地震のエコノミークラス症候群の違いに関する研究

研究分担者 榛沢和彦 新潟大学

2016年熊本地震と2004年新潟県中越地震のエコノミークラス症候群の比較検討を行った。詳細は添付のPDFを参照。

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
呼吸循環外科学講師

A. 研究目的

新潟県中越地震(2004年)と熊本地震(2016年)でのエコノミークラス症候群の発症について比較検討することと、中越地震の9年後フォローから熊本地震への啓発を行うこと。

B. 研究方法

榛沢らは、これまで日本の災害でエコノミークラス症候群のデータを有しており、そのデータと今回KEEPプロジェクトによる熊本地震でのデータを使用する。

(倫理面への配慮)

新潟大学の倫理委員会で承認されており、被災者の承諾を得て、匿名化している。

C. 研究結果

中越地震での深部静脈血栓症陽性率の年度別推移を示す。1年後には10%以下になったが、その後は一定の頻度で陽性率は変わらない(添付資料)。  
中越地震と熊本地震の日毎の発症数は、グラフの通りで、中越地震ではマスコミ報道が8日後熊本地震では3日後で、その後から発症数は緩やかなカーブであった。  
中越地震被災地の9年後、2013年深部静脈血栓症検診では、下腿血栓のある被災者では明らかに肺塞栓症、脳梗塞、虚血性心疾患の発症数が高値であった(添付資料)。

D. 考察

マスメディアのエコノミークラス症候群に対する報道は予防啓発にかなり有効である可能性がある。また、新潟県中越地震のデータから9年後にも肺塞栓、脳梗塞、虚血性心疾患が下腿静脈血栓保有者において有意に高値であったことから、継続してフォローを行う必要がある。

E. 結論

震災後の被災者において、下肢静脈エコーによる下腿血栓保有者は長期的な経過観察が必要である。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

榛沢和彦 わが国と欧米の避難所の違いは?  
(特集 熊本地震:何が起こり,何を行ったか)  
治療2016 98(11)1809-1812

2. 学会発表

第81回日本循環器学会 会長特別企画  
Middle Niigata Prefecture Earthquake 2004  
発表 榛沢和彦 2017.3.19 金沢

『熊本地震シンポジウム2017』シンポジウム3  
熊本地震でのVTE対策を考える  
発表 榛沢和彦 2017.4.23 熊本

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし